

JS 2012 ディスクリプター
(日本語版)

©2012 Mika Kawanari

C2	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリ プター	母語話者にかなり速いスピードで話されても、話し方の特徴に慣れる時間の余裕があれば、あらゆる種類の発話を難なく理解できる。	母語話者と比べても引けをとらずに、適切に自由に対話や発表ができる。	専門性が高く抽象的で、言語的にも複雑な文章(各種マニュアル、各専門分野の書籍、論文、記事、文学作品、英字新聞の社説(例: The Washington Post, Timesなど)や、あらゆる形式の書きことばを、母語とほぼ同様に正確に速く読み、詳細に理解して批判的に解釈できる。	社会性や専門性が高い話題で、複雑かつ抽象的な内容の文章(仕事上の文書、論文、記事、報告書、文学作品の書評や評論などを)洗練された論理構造で、そのジャンルに適切なスタイルで、読み手が正確な意図までをよくわかるように明瞭かつ正確に書ける。
各論 ディスクリ プター	背景知識の有無にかかわらず、専門外の複雑な議論、母語話者同士の会話や、CNN,BBCニュースなどの英語圏の放送がすべて詳細に理解できる。	慣用表現や口語表現も使いこなして、日常会話でも、仕事上や学術的な議論でも、細かいニュアンスを的確に伝えながら非常に流暢なやりとりができる。その際に、表現上の困難があっても、聞き手がほとんど気づかないほどにうまく修正できる。 話題について知識のない聞き手に対しても、論理的な構造をもった流れのよいスピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションなどを、明瞭で滞りなくよくわかるように組み立て、説得力のある発表ができる。		文法、語彙、文章構成力などにおいて非常に高い能力がある。

C1	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリプター	講演、討論、討議、映画などの馴染みのある話題や一般的な話題について、多数の慣用表現や口語表現を含み、構成がしっかりしていない自然な発話でも、内容のほとんどすべてを比較的容易に聞ける。	専門外の抽象的で複雑な話題に関しても、要点を押さえながら積極的に自信を持って対話や発表ができる。	自分の専門分野に関連していない、かなり長く複雑な文章でも、内容を詳細に理解できる。	社会性や専門性のある話題で、むずかしい内容の文章(仕事上の文書、論文、レポート、文学作品の概要、手紙など)を、明確な論理構成と、そのジャンルに自然なスタイルで、読み手がポイントをよくわかるように正確に書ける。
各論 ディスクリプター	自分の専門外の抽象的で複雑な話題について、身振りや表情など視覚情報のない録音された音声でも、話し手の意図や概要を詳細に理解できる。	公的な場面でも複雑な話題について、スライドなどを用意して、明瞭かつ詳細なプレゼンテーションができる。	複雑で抽象的な内容を、必要に応じて批判的に読み方を変えたり、ニュアンス、意図、言外の意味などを考えながら、文脈から推測しながら読み、要点をまとめたり、結論を理解できる。	描写文や創造的なテキスト、事実の記述でもストーリー性のある内容でも、慣用表現や口語表現を上手に使い、表現や文章構成において柔軟で多様な工夫ができる。
	非母語話者にとって分かりやすく明瞭に発音されるNHK英語ニュースや教育用のドキュメンタリー番組(National Geographic等)等を、細かいところまで理解できる。	ビジネスなどの商談・会議やフォーマルな話し合いなどの場面で、論点を発展させながら交渉がうまくでき、先導的役割を果たせる。	英字新聞(例:The Washington Post, Times)などを、むずかしい記述や慣用表現は読み返したり、多少の推測や参考資料(辞書など)を必要とするかもしれないが、詳細まで理解できる。	文法、語彙、文章構成力などにおいて高い能力があるが、誤りがあることもある。
	馴染みのないアクセントや方言は理解が困難な場合がある。	助けをほとんど必要とせず、相手や場面に応じて、言いたいことを自然に表現し、自由に流暢に会話することができる。	日本人向けの英字新聞(例:The Japan Times, The Daily Yomiuri)などが、容易に細かいところまで読める。	
		馴染みがない分野の語彙や言語形式には困難をともなうことがあるが、イントネーションや文強勢を適切に使い、細かいニュアンスを比較的うまく表現することができ、ときに文法上の誤りがあっても自分で訂正ができ、聞き手に問題なく理解させる。		

B2.2	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリ プター	<p>標準語で普通のスピードで話されれば、一般的、学問的、職業上、余暇に関する幅広い話題について、要点や流れを理解し複雑な内容をすぐに把握できる。</p>	<p>一般的で幅広い話題に関して、多少説明がむずかしい内容でも、要点の適切な強調や説得力のある言葉遣いで、はっきりと対話や発表ができる。</p>	<p>新聞記事や小説などのかなりの分量と内容のある文章を、テキストの種類に合わせて、読むスピードや読み方を変えながら読める。</p>	<p>自分の知識の範囲内であれば、既知の抽象的な話題に関する文章や、日常の事実や公的な内容(論評、実用的説明、講義や記事の要約、仕事上の文書、解説など)を、明瞭で詳細に書ける。</p>
各論 ディスクリ プター	<p>学校などで耳にする標準的な発音であれば、講義やビジネスなどの場面で、複雑でも文構造が明瞭な発話をかなり理解できる。</p> <p>話の方向性が示されれば、実際の場面でも録音された場合でも、母語話者間の議論や活発な会話などを、ほとんど細部まで聴き取ることができる。</p> <p>1時間程度の議論や発表を聞いて、ことばに明示されない態度や雰囲気や社会文化的な背景から生まれる意味を推測しながら、複雑な情報でも理解することができる。</p> <p>聞き慣れない発話や言い回しでも理解できるが、周囲に雑音などの邪魔があったり、言語的ユーモアや馴染みのない慣用表現が使われたりすると、聞き取りに困難があるかもしれない。</p>	<p>ときにことばに詰まることもあるが、はっきりと、丁寧に、状況に応じて自分のことを述べたり、流暢に長い会話に参加できる。</p> <p>母語話者との会話では、たいいてい話題について効果的なやり取りができる。</p> <p>聞き手にも自分にも負担をかけることなく、一般的な話題や自分の関連分野の話題について、あらかじめ準備してプレゼンテーションができる。</p> <p>あらゆる場面のやりとりに、幅広い語彙や言語形式を使って表現することができ、発音やイントネーションは明確で自然で、文法の使い方はよく、誤りは自分で訂正でき、誤解につながることはない。</p>	<p>自分の得意分野の話題で、部分的に読み慣れていて、ある程度内容を知っている文章(論文、記事など)ならば、十数ページでも容易に読みこなせる。</p> <p>ある程度の教養を必要とする情報や記事、レポートなどを、難しい箇所は読み返したり、多少の推測や参考資料(辞書など)を必要とするかもしれないが、書き手の意図や態度を理解し、内容の詳細や要点まで把握できる。</p> <p>参考資料(辞書など)を使うことができれば、自分の得意分野外であっても、内容の要点をまとめ、自分のことばで説明できる程度に読める。</p> <p>小説などを読む際に、馴染みのない慣用表現や文化的な隠喩表現は理解がむずかしい。</p>	<p>自分の関心のある得意分野の話題について、大学生が授業などで書くエッセイ、レポート、サマリーなどを、1000語以上で容易に書ける。</p> <p>論理的な文章構成を用いて、自分の考えを示し、系統的に論じ、情報や考えを分析し、推敲することによって、整然としたまとまりのある論文が書ける。</p> <p>文法、語彙、文章構成力などの能力は比較的高く、文章表現力も豊かであるが、頻度の低い文構造、決まり文句、文体などでは誤りは起こることが多い。</p>

B2.1	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリ プター	標準的で普通のスピードで話されれば、具体的でも抽象的でも一般的な話題について、主題を容易に理解できる。	個人の経験の範囲内であれば、様々な話題についてははっきりと正確に対話ができたり、出来事や経験に関する印象や考えなどをうまく説明することができる。	Penguin Readers Level 5 程度の読み物であれば、内容を詳細まで理解できる。	自分の知識・関心のある身近な話題について、経験した内容や、事実や想像上の出来事、自分の考えや意見、伝えるべき情報などを、わかりやすく詳細に書くことができる。
各論 ディスクリ プター	<p>学校などで耳にする標準的な発音であれば、たいていのテレビのニュース番組、ドキュメンタリー、インタビュー、映画などを理解できる。</p> <p>話の方向性が明確に示されていれば、内容がやや複雑でも、議論を聴いて話の展開が理解できる。</p> <p>一般的な話題の会話であれば、話の内容をほとんど理解し、話し手の態度や表現のニュアンス、上手下手など話し方のレベルも分かる。</p> <p>母語話者同士の自然な会話を聞き取るのはむずかしいことがある。</p>	<p>実社会生活の多くの場面や、ある程度知っている話題に関しては、かなりフォーマルな話し合いであっても、積極的なやりとりができる。</p> <p>母語話者との会話では、相手に違和感を感じさせたり、言葉に詰まることなく、身近なふつふつとのやりとりができる。</p> <p>馴染みのある話題であれば、幅広い語彙や言語形式、ある程度の慣用表現も使って、根拠を示したり、賛成や反対の理由をあげたりしながら説明することができる。</p> <p>発音やイントネーションは明瞭で自然で、話し方はテンポよく、文法も適切に使用され、ちょっとした誤りはあるが、理解を阻害することはほとんどない。</p>	<p>新聞記事、短編、流行の読み物、レポート、解説書などの一般的な内容の文章であれば、容易に読める。</p> <p>自分の得意分野に関連した文章であれば、文章の含意や書き手の意図が分かり、微妙な表現や考えの違いがある程度は把握できる。</p> <p>馴染みのあるテーマの文章であれば、内容を吟味し、必要な情報を取り出し、図や映像など他の情報と関連させて理解できる。</p> <p>慣用表現や文化的な隠喩表現の理解は、文章が長くなればなるほど困難になる。</p>	<p>自分の得意分野の事柄について、1000語程度のエッセイ、レポート、サマリーなどを、パラグラフ構成法に基づいて書ける。</p> <p>表現の微妙なニュアンスやスタイルの適切性には限界があり、文章が長くなればなるほど、文章構成が複雑になればなるほど、論理の飛躍や不自然な表現が目立つようになる。</p> <p>文法、語彙、正書法、句読法には比較的高い能力があり、誤りがあっても誤解を招かない。</p> <p>文章構成においては日本語の影響がどうしても現れるが、ある程度は結束性の高い文章が書ける。</p>

B1.2	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリプター	<p>標準的なことばで発音もはっきりしていれば、自分の得意分野や興味あるテーマについて、日常生活や仕事の話のほか、抽象的・文化的な話題についても、内容のポイントや概要を理解できる。</p>	<p>個人的な関心事にとどまらず、練習しておけば、既知の簡単な社会問題についても、他の事実や情報などと比較しながら、説明したり、詳しく述べたり、話し合ったりできる。</p>	<p>日常の資料など(非母語話者向けの新聞雑誌の記事、旅行のガイドブック、パンフレット、機器などの説明書、Penguin Readers Level4などの読み物が楽に読め、自分の興味のある主題であれば、多少難解でも推測して内容を理解できる。</p>	<p>個人的な関心事や身近な話題であれば、既知のニュースを書く、読んだ本について300語程度の要約を書く、音楽や映画などの文化的話題について既存の知識の範囲で考えを書くなど、標準的な形式できちんとした簡単な文章が書ける。</p>
各論 ディスクリプター	<p>英語学習者向けの一般的な話題に関連するニュースやインタビュー、短い講義や講演、電話のメッセージなどを聞いて、内容の大部分を理解できる。</p> <p>ゆっくりはっきり話されたテレビ番組であれば、身近な内容から既知の時事問題などでも、要点や内容のほとんどを理解できる。</p> <p>教科書などで使われる標準的な発音であれば、馴染みのない表現あっても、多少長くても、話された内容をほぼ正確に聞き取ることができる。</p> <p>母語話者との具体的内容をともなう対話では、あまりよく知らない話題になると、聞き取りに問題がある。</p>	<p>初対面の人でも、相手の人が標準的な発音・表現で話してくれれば、話を理解し適切なコミュニケーションができる。</p> <p>観た映画や読んだ本の感想について述べたり、その映画や本のストーリーを比較的詳細に説明したりできる。</p> <p>言語表現はいつも正確であるとは言えず、言葉が詰まったりすることもあるが、かなり容易に自分のことは伝えられる。</p> <p>比較的幅広い語彙力があり、ある程度は複雑な文構造を使って様々な表現ができるので、発音、アクセント、イントネーションなどが多少不自然なことがあっても、問題なくはっきりと理解される。</p> <p>文法の誤りは多少あるが、話題や場面などが普通とは少し異なっても、ほとんど問題にはならない。</p>	<p>自分の得意分野であれば、1000語程度の記述文や説明文を読んで、必要な情報を見つけ、概要をまとめることができる。</p> <p>書き手の細かい意図や表現のニュアンスは、文章が長くなればなるほど、読み返さないと、はっきりとは分からなくなることが多い。</p>	<p>自分の得意分野の事柄について、2~3パラグラフ(2~300語)程度で構成された文(簡単なエッセイ、スピーチ原稿、レポート、説明、講義ノート、本や記事の要約、議論や発表のまとめなど)が書ける。</p> <p>複雑な内容でなければ、主題文(main idea)に支持文(supporting sentences)を加え、読み手を意識してパラグラフ構成をしっかりと書ける。</p> <p>学習した話題についてであれば、必要な語彙や文法構造を有効に使って、まとまった文章を書ける。その談話構造に関しては、等位や従属関係もうまく表現できる。</p> <p>むずかしい内容や複雑な文章構成になると誤りが起き、文体の適切性も欠くことがある。また、日本語の影響が目につくが、全体として分かりやすく、比較的正確に書ける。</p>

B1.1	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリ プター	<p>標準的なことばで発音もはっきりしていれば、学校、仕事、趣味などに関連するごく身近な事柄や話題について、内容のほとんどを理解できる。</p>	<p>時には言いたいことが言えないこともあるが、個人的な関心事や経験、具体的な話題などであれば、比較的詳しく話せる。</p>	<p>身近な話題(予定表、カレンダー、授業、料理、趣味、スポーツなど)であれば、500語程度の様々な文章が、辞書など準備しなくても、要点を把握しながら読める。</p>	<p>事柄の提示は直線的であるが、身近で事実に基づく話題であれば、ある程度標準的な形式で簡単な文章が書ける。</p>
各論 ディスクリ プター	<p>英語学習者向けの既知の話題についてのニュースや、電話のメッセージなどを聞いて、内容の大筋を理解できる。</p>	<p>複雑ではないが、買い物で自分の要望を伝えながら交渉するなど、日常生活で必要なやり取りができる。</p>	<p>非母語話者向けの新聞や雑誌(Daily Yomiuri, Japan Timesなど)で、身近な話題を扱う記事の要点などが理解できる。</p>	<p>学校や日常生活で起きた出来事や自分の予定や将来について、日記などに必要に応じて詳細に記述できる。</p>
	<p>ゆっくりはっきり話されたテレビ番組や映画であれば、概要をつかむことができる。</p>	<p>内容により緊張を伴う状況でも、自分の感情や感想、夢や希望など個人的なことは伝えられるが、抽象的なことを述べるのには困難がある。</p>	<p>日常生活で経験しない内容(海外文化、経済、哲学など)の理解はむずかしい面がある。</p>	<p>個々の句をつなげて長い文を作り、単純につながりあわせたテキストにし、結束性のある定型スタイルの文章(手紙、説明、物語、報告、記録など)が書ける。</p>
	<p>教科書などで使われる標準的な発音であれば、くり返しや言い換えなどが時に必要になるが、概要をほとんど聞き取ることができる。</p>	<p>内容によってはたどたどしいところがあるが、事実関係を述べたり、理由を説明したりすることができ、聞き手に理解される発話を維持できる。</p>		<p>身近な情報(買い物、スポーツ、趣味、食事、ペット、学校生活など)を表現して、効果的に伝えるのに必要な、語彙や文法の能力が十分ある。</p>
	<p>数は限られてはいるが、頻度の高い慣用表現が理解できる。</p>	<p>日常生活からやや広範囲にわたる語彙と、頻度の高い言い回しが使えるので、アクセントやイントネーションに、日本語なまりや誤りがときどき見られるが、発音は比較的是っきりと理解される。</p>		<p>学校や日常生活で使う言語材料や基本文法構造はほぼ正確に使えるが、多少複雑な文法構造の使用は困難をとまう。</p>
		<p>比較的多様な文構造が使えるが、文法の誤り(冠詞、接辞など)は自然な発話の際にはよく起こる。理解を妨げることはほとんどない。</p>		

A2.2	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリ プター	<p>簡単なことばとはっきりした発音でゆっくりと話されれば、ごくありふれた日常的で身近な事柄について、具体的なニーズを満たす程度に内容を理解できる。</p>	<p>聞き手が集中して聞いてくれれば、日常的な出来事の話について、個人的な気持ちや考えを、簡単なことばと短い文である程度詳しく話すことができる。</p>	<p>日常的な情報を伝える文章(手紙、広告、短い記事や解説文)であれば、辞書などを用いて、主題や内容の詳細を理解できる。</p>	<p>日常的な場面や生活に直接関連のある話題について、簡単な表現や文を連ねて、大まかな内容や要点を書くことができる。</p>
各論 ディスクリ プター	<p>映像が実況のほとんどを説明してくれるならば、簡単なテレビ番組のニュースの内容をかなり大まかに理解できる。</p> <p>短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンス(レストラン、鉄道の駅、道路など)を聞いて、必要な情報を取り出して要点を聞き取ることができる。ただし、くり返してもらわなければ理解できないこともある。</p> <p>身近で一般的な話題の発話であれば、ある程度の慣用表現は聞き取れ、文脈を手がかりにその意味も理解できる。</p>	<p>はっきりとゆっくりとしたやり取りであれば、個人的な関心ごと・経験・習慣・日々の話題について、会話に参加することができる。</p> <p>必要に応じて会話の相手が助けてくれれば、日常的な場面において考えや情報を交換したり、質問に答えたり、賛成や反対の意見を言うことができる。</p> <p>練習する時間が与えられれば、短いプレゼンテーションが滞りなくできる。</p> <p>話し方は、準備されている内容については比較的流暢であるが、即座の応答に対しては言葉に詰まることが頻繁にある。</p> <p>よく使われる日常的な語彙や、基本的な文法および慣用表現は、うまく使いこなせるので、発音に日本語なまりや誤りがあっても理解は可能である。</p> <p>文法的に難しい構文(複文、関係詞節など)も、文脈に応じて使えるものがわずかにあるが、準備を必要とする複雑なスピーチでは、基本的な誤り(動詞の時制など)が多く起こり、時に理解されないこともある。</p>	<p>Penguin Readers Level 3 程度の読み物であれば、パラグラフの主題や内容をほぼ理解することができる。</p> <p>日常の身近な話題についての数パラグラフ(2~300語)の文章を読んで、特定の情報を取り出すことができる。</p> <p>ある文章の一節を理解するために、読み返したり、辞書や文法書などを参照したりする必要がある場合もある。</p>	<p>自分に関わる事実や出来事、過去の行動、経験、学校や家族などについて、簡単なこと(短い手紙、Eメール、メモ、依頼、申込、伝言など)を、事実を列挙して書くことができる。</p> <p>日常生活上の基本的な語彙、構文、よく使われる結束表現(接続詞、副詞など)などを使って、つながりのある文で100~200語程度の内容が書ける。</p> <p>簡単な語句や文構造はほぼ正確に書けるが、あまり使われない構文や表現などは、書き誤ったり、ぎこちない表現になったりすることがある。</p>

A2.1	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリプター	<p>簡単なことばとはっきりした発音でゆっくりと話されれば、日常に最も直接的で基本的な話題や事柄について、内容を大まかに理解できる。</p>	<p>聞き手が集中して聞いてくれれば、日常的な出来事の話について、個人的な気持ちや考えの概要を、簡単なことばで大まかに話すことができる。</p>	<p>よく使われる一般的な語彙で書かれた日常的で簡単な文章(私的な手紙、パンフレット、メニューなど)であれば、ほとんど問題なく読める。</p>	<p>ある程度時間をかければ、日常的な場面や生活に直接関連のある話題について、簡単な表現や文を連ねて、大まかな内容を簡単に書くことができる。</p>
各論 ディスクリプター	<p>重要な点をくり返してもらえらるなら、個人的に直接かかわる事柄(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物など)についての短いスピーチや日常会話をだいたい理解できる。</p> <p>標準的な発音で適切な速さで言われれば、日常生活に関する簡単なメッセージ(短かい指示やお知らせ)は、多少込み入った内容でも、要点をほとんど理解できる。ただし、何度かくり返してもらった必要がある場合もある。</p>	<p>はっきりとゆっくりとしたやり取りであれば、自分自身の生活・環境・好き嫌いなどの社交的な話題について、短い会話に参加することができる。</p> <p>必要に応じて会話の相手が助けてくれれば、よくある日常的な場面において、社会生活上に必要な簡単なやり取り(買い物、食事、会う約束など)ができる。</p> <p>十分に練習する時間が与えられれば、短いアナウンスや簡単なプレゼンテーションができる。</p> <p>身近な話題(生活、日課、好き嫌いなど)であれば、基本的な文法を用いて、初歩的な短い即座のスピーチができる。ただし、基本的な文法構造であっても多くの言い誤りはかなり起こる。</p> <p>話す内容によって想定できる語彙や、基本的な文法(接続詞など)は、容易に使いこなすことができるが、発音に誤りやカタカナ語の影響による日本語なまりもあり、ときに誤解を生じる。</p>	<p>Penguin Readers Level 2 程度の読み物であれば、内容を詳細まで難く理解することができる。</p> <p>多少難しい内容の文章であっても、文脈に応じた簡単な推測を働かせて、必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>始めて触れる文であれば、短い一節であっても、読む速度はまだゆっくりである。</p>	<p>ある程度時間をかければ、自分に関わる出来事や生活について簡単な内容(私的な短い手紙、Eメール、メモ、依頼、申込、伝言など)を、簡単なことばで書ける。</p> <p>日常生活上に必要な具体的な語彙や、基本的な時制、簡単な接続詞(and, but)を使って、つながりのある簡単な文が書ける。</p> <p>辞書を参照すれば、知っている語彙や文法を使って、100語程度の自由作文をある程度は正確に書けるが、時制や語尾変化などには基本的な誤りが頻繁におこり、ぎこちない表現もかなりある。</p>

A1.3	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリ プター	<p>当人に向かって丁寧にゆっくりと話されれば、ごく身近で簡単な発話(個人的な質問、日常的な指示や依頼など)を理解できる。</p>	<p>聞き手がこちらの事情を理解して、はっきりとゆっくりと繰り返し話しかけてくれれば、自分自身に直接関わる話題(家族、友達、音楽、ゲームなど)について、自分の考え(好き嫌いなど)を、比較的単純な表現と短い文で話すことができる。</p>	<p>複雑でない文章構造で書かれた短い文章で、日常生活で使われる内容(掲示、案内、指示など)であれば、一文一節ずつ理解できる。</p>	<p>ある程度時間をかければ、日常生活のニーズや経験に関連していて、容易に予想できる状況などについて、短い文を個々に書くことができる。</p>
各論 ディスクリ プター	<p>具体的な場面(買い物、食事など)や個人的な経験(スポーツ、映画など)に関連する話題について、簡単な対話を理解できる。</p>	<p>ごく日常的な場面において、単純な会話のやり取り(例: Would you like tea or coffee? - Tea, please.)はできるが、多少込み入った内容になると、ことばに詰まったり、言いよどみがかかりと起こり、相手の助けが必要になる。</p>	<p>Penguin Readers Level 1 程度の読み物であれば、内容を詳細まで理解することができる。</p>	<p>必要に応じて辞書などを使用すれば、身近でよく知っている簡単な内容(絵はがき、メッセージ、グリーティングカード、記録など)を書くことができる。</p>
	<p>はっきりとした発音で、ゆっくりと個人的に話しかけられれば、日常のよくある状況での簡単な内容を理解できる。</p>	<p>練習を重ねれば、学習した基本的な語彙、表現、文法、文構造などに限られるが効果的に使って、意思を伝えたり発表したりすることができる。</p>	<p>短い内容(絵はがきや天気予報など)を読んで、必要な情報を見つけられる。</p>	<p>日常生活に関連する具体的なこと(起床、食事、学習など一日の出来事など)について、学習した表現や文を使って書くことができる。</p>
		<p>準備のない自然な発話では、初歩的な表現であっても多くの文法的な誤りが頻繁に起こり、発音には日本語なまりが目立つこともあり、特に強勢やイントネーションは不自然なところが多く、誤解されることがある。</p>	<p>短い内容の文章であっても、使われている語句や文法によっては、読むのに時間がかかることがある。</p>	<p>限られた語彙と簡単な文構造で、ある程度の量は書けるが、さまざまな誤りを生じる。</p>

A1.2	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリ プター	<p>場面の手がかり(しぐさ、表情、状況など)があれば、自分自身や日常生活に関する事柄(食事、持ち物、好き嫌いなど)を聞いて、基本的な語句や表現を一文一節ずつ理解することができる。</p>	<p>聞き手がこちらの事情を理解して、はっきりとゆっくりと繰り返し話しかけてくれれば、日常生活に直接必要なこと(日課や食事の好き嫌いなど)や自分自身に関する話題について、単純な表現と短い文で簡単に話すことができる。</p>	<p>よく知っている語句で書かれた、身近なことに関連する短く簡単な表現(名前、道路標示、紹介、道案内など)であれば、問題なく理解できる。</p>	<p>身近で日常的なニーズの事柄を、短い文や句で書いて伝えられる。</p>
各論 ディスクリ プター	<p>かなり限定された数ではあるが、授業などで学習した語句や表現、短い文をほぼ理解できる。</p> <p>状況や場面の明確な手がかりなしには、簡単なやりとりであっても、ニュアンスでさえ聞き取るのが難しいことがある。</p> <p>会話では、相手がゆっくりとはっきり話す、くり返す、強調する、言い換えるなどの助けがないと聞き取りが難しい。</p>	<p>ごく基本的な語彙や表現、文法を使って、ある程度の内容の会話のやり取りができるが、言葉に詰まったり言いよどみが起こりがちなので、相手の助けを頻繁に必要とする。</p> <p>発音は、不完全で不安定であり、コミュニケーションに支障をきたし誤解されることがよくある。</p> <p>かなり多くの言い誤りが、ちょっとした発話の中でも頻繁に起こる。</p>	<p>Penguin Readers Easystarters程度の読み物であれば、多少困難を感じる部分もあるが、内容を理解することができる。</p> <p>簡単な事実に関する内容(カレンダー、日誌、旅程など)について、難しい場合は読み返しがあるかもしれないが、特定の必要な情報は読み取れる。</p> <p>予想可能な場面や状況であっても、身近でない語句や表現を推測して理解することは難しい。</p>	<p>自分自身や身近なことについて、数行の文や句をうまく使って、メモを取ったり、質問に答える内容を書いたりすることができる。</p> <p>基本的な単語や句をうまく使って、内容は制限されるが、簡単な文を個々に書くことができる。</p> <p>学校などで習って覚えている表現や文はほぼ正確に書けるが、ごく初歩的な自由作文では、かなり多様な誤りをしがちである。</p>

A1.1	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリ プター	<p>非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、日常生活のごくありふれた単語や表現(あいさつ、人の名前、日付や曜日、日常生活で使う数字(電話番号や年齢)など)が、理解できる。</p>	<p>聞き手がこちらの事情を理解しはっきりとゆっくりと繰り返し話しかけてくれば、自分自身に関する基本的な話題について、簡単な語句を用いて話すことができる。</p>	<p>あらかじめ練習の機会が与えられれば、教科書などに載っている日常生活の身近なことを表わす短い表現を、正しい発音で音読することができる。</p>	<p>ごく身近なニーズの事柄を、簡単な語句を並べて書いて伝えられる。</p>
各論 ディスクリ プター	<p>聞き慣れない語句では、くり返す、強調する、言い換えてもらうなどの助けがないと聞き取りが難しい。</p> <p>当人に向かってゆっくりと話されれば、簡単なあいさつ、動作の指示、学習の指示などを理解し、指示されたように行動することができる。</p>	<p>ごく身近で日常的な事柄についての簡単な質問(名称、曜日、時刻、数など)には、ごく基本的な表現を使って答えられる。</p> <p>自分自身や家族や友達のこと、住まいや所有物などについて、簡単な方法で会話ができる。</p> <p>ある程度の準備を必要とするが、名前、住んでいる場所、趣味、家族などについて、学習した定型表現を用いて、自己紹介ができる。</p> <p>会話のやり取りには、身振り手ぶりを伴うことが多い、発話には、くり返しや言いよどみ、言葉に詰まることなどがたびたび起こる。</p> <p>発音は、まだ不完全で安定せず、学習不足の語句は相手に理解されないことが多い。</p>	<p>数は限られるが、身近な単語や短い表現を読み、絵や写真などとむすびつけて理解できる。</p> <p>予想可能な場面や状況であっても、身近でない語句や表現を推測して理解することはかなり難しい。</p>	<p>ごく短い身近な単語(book, sunなど)や、数字の1~10程度のスペルを、アルファベットを使ってつづることができる。</p> <p>手本を見るなどの助けがあれば、新年のあいさつ、誕生日など簡単な定型文のグリーティングカードを書くことができる。</p> <p>自分自身のことを表す簡単な語句(名前、年齢、好き嫌い、家族など)や、日常生活によく使う語句(banana, red, happyなど)を書くことができる。</p> <p>学習した範囲内で、自分自身についてごく簡単なことを単文で正確に書くことができる。(例:I am fine.)</p>

Pre-A1	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
総論 ディスクリプター	<p>長い区切りを置いて、はっきりとゆっくりと注意深く発音してもらったり、絵やジェスチャーなどの手がかりを与えてもらえたりすれば、日常生活にありふれた語句(自分、家族、友達、食べ物、持ち物、動物、季節、衣服、動作など)を聞いて理解できる。</p>	<p>教師の後についてくり返し練習すれば、日常生活に関する短い語句や表現を、英語らしく発音することができる。ただし、注意しないと発音に日本語の影響が残ってしまうことがある。</p>	<p>一つ一つの文字を識別して、アルファベットを讀んで発音できる。ただし、注意しないと、日本語の音に置き換えて発音してしまうことがある。</p>	<p>アルファベットの一文字一文字は書けるが、単語として記述したり、大文字と小文字を使い分けたりすることなどは難しい。</p>
各論 ディスクリプター	<p>当人に向かって丁寧にゆっくりと話されれば、よく使う教室英語のあいさつ(Good morning, Good bye, See youなど)や、教室での簡単な指示(Stand up, Be quietなど)を理解できる。</p>	<p>簡単なあいさつを理解した上で、短いあいさつことばを繰り返したり、相手に応答したりすることができる。</p>	<p>数字(1~10)、色(red, blue, yellowなど)、家族などに関する単語を見て理解し、発音することができる。</p>	<p>発音を聞いて文字が予測しやすければ、身近な単語(book, cakeなど)のスペルをつづることができる。</p>
	<p>はっきりと発音されれば、1から20までの数字は聞いて理解できる。</p>	<p>自分自身のこと(名前や年齢、住んでいる場所、誕生日や好きなもの、嫌いなもの、気分など)であれば、短い表現や身振りを使って、はっきりと述べるができる。</p>	<p>読んでもらう絵本の中から知っている単語や文を先生や友達と発音したり、繰り返したりすることができる。</p>	<p>聞いて書くことのできる単語は、学習したもので具体的で身近な名詞などに限られる。</p>
	<p>英語の基本的な音のちがいはわかり、カタカナ英語として知っている身近な語は聞き取れることがある。</p>	<p>ある程度の準備を必要とするが、ごく日常的な語や表現を用いて、身近な事柄や日常的な事柄(色や数、曜日、月、天候、時間、家族や友達など)について簡単な語句を使って表現したり、先生や友達とやり取りをしたりすることができる。</p>		<p>句や文を書くことは難しい。</p>
	<p>聞き慣れない語句に関しては、くり返しや日本語などの手助けを必要とし、聞き誤りもたびたび起こる。</p>	<p>周囲の助けを受ければ、少し難しい事柄(自分の興味、趣味、日常生活、将来像など)について発表したり、相手の発言を聞いて理解したりすることができる。</p>		
	<p>日本語にない発音の聞き取りは困難を要し、日本語で近い発音に置き換えて理解してしまうことがある。</p>	<p>自発的に発話をするはまだかなり難しく、日本語が自然に出てしまったり、先生に言い方を聞いてしまうことが多い。</p>		
	<p>英語の音や歌、チャンツに興味を持つことができる。</p>			